

アンデス形成期の神殿と後背地に関する予備的研究

芝田, 幸一郎 / SHIBATA, Koichiro

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

7

(発行年 / Year)

2020-06-03

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03161

研究課題名(和文) アンデス形成期の神殿と後背地に関する予備的研究

研究課題名(英文) A Preliminary Study on Residential Areas of the Formative Andes

研究代表者

芝田 幸一郎 (Shibata, Koichiro)

法政大学・経済学部・准教授

研究者番号：50571436

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：アンデス文明形成期の社会についての研究は、神殿遺跡の発掘調査を中心に進められてきた。居住エリアの調査研究が遅れている一因には、その発掘はおろか位置の同定すら困難であるという事情があった。本研究では、ドローンによる三次元測量を効果的に利用した踏査を実施することによって、既存の航空写真資料等では視認できなかった形成期の居住エリアを複数確認し、代表者がこれまで発掘調査を実施してきた2つの神殿遺跡との地理的位置関係について仮説を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アンデス文明の初期形成過程においてどのような社会が存在したのか、それがどのような変化を経て国家成立に至ったのかという問題を解明するため、当時の一般の人々がどこにどのように暮らしていたのかという基礎的なながらも蓄積の少ない分野を推し進める中・長期的研究のための布石になっている。

研究成果の概要(英文)：Studies on the Formative andean society have been focused on the ceremonial centers. On the other hand, the residential areas have been rarely researched, because of difficulties in identifying the sites. Our archaeological survey with drone aerial photos and photogrammetry processed 3D modeled data allowed us to identify some residential areas of the Formative Period. The result illustrates the geographical distribution of the ceremonial centers, residential sites and landscape.

研究分野：アンデス考古学

キーワード：アンデス ペルー 形成期 居住エリア ドローン セトルメントパターン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アンデス文明における形成期社会の研究は、当時の社会の中核をなす神殿や指導者層の埋葬遺構の発掘資料を主軸として進展してきた。ペルー共和国アンカシュ県のネペーニャ川下流域をフィールドとして代表者が2002年以降に行ってきた研究も同様に、2つの神殿遺跡を対象としている。

一方、当時の社会の一角を構成していたはずの大衆層へのアプローチも並行して進められるべきではあるが、その居住エリア等の研究は遅れている。神殿遺跡とは異なり、壁などの遺構が地表に露出していないこともあり、発掘調査はおろか、位置の同定も困難だったことによる。

2. 研究の目的

本研究は、アンデス形成期の社会組織を解明するアプローチの一環として、当時の神殿とそれに関連する居住エリア等の地理的関係をつかむことを主目的とする。具体的には、代表者が神殿遺跡の発掘調査を継続的に実施してきたネペーニャ川下流域にて、新技術を導入した広域調査を行い、神殿と同時期に存在していた居住エリア等を同定することを試みる。

3. 研究の方法

ネペーニャ川下流域に位置するネペーニャ市周辺のおよそ6km四方の調査エリアにて、ドローンを使用した航空写真測量および踏査を実施した。近年ペルー海岸部を中心にドローンを用いた写真測量(SfM)が各国の考古学調査団によって積極的に利用されているが、その解像度の高さは、砂層に埋もれた凹凸の少ない居住地遺跡等を登録するために有効と思われた。今回の調査においても、Google Earth等の衛星画像やペルー空軍による航空写真では解像度不足・同定不可能な小規模遺跡が、明瞭に視認され、全体像が把握された。また一部の遺跡周辺下記(C, D, E)では光波測量も行った。重点的な調査対象は以下A~Fの6遺跡とその周辺部である。踏査時における表探土器の時期比定は、セロ・ブランコ遺跡とワカ・パルティエダ遺跡の発掘成果を基準とした。

A. セロ・ブランコ遺跡とその周辺

ネペーニャ川の下流域北岸に位置する。代表者が2002年と2004年に発掘調査を行った、当該エリア最大の遺跡。周辺に点在する小マウンド群は未調査・未測量であった。

B. ワカ・パルティエダ遺跡とその周辺

セロ・ブランコから約2km南に位置する。代表者が2004、2005、2013年に発掘調査を行った、当該エリアで二番目に大規模な遺跡。

C. スーテ・バホ遺跡とその周辺

ワカ・パルティエダ遺跡から700mほど南に位置する。代表者が2013年に発見・登録した2つの低マウンドから成る遺跡である。

D. PV31-27 遺跡とその周辺

セロ・ブランコ遺跡から4km北西の、耕作地と河岸砂地の境界付近に位置する。1960-70年代にかけて米国の考古学者が行った遺跡分布調査によって発見・登録されたが未測量のマウンド遺跡である。

E. PV31-192 遺跡とその周辺

PV-27の300m南方に位置するマウンドで、上記1960-70年代の踏査で発見・登録されているが未測量のマウンド遺跡である。

F. セロ・ブランコ・エステ遺跡とその周辺

セロ・ブランコ遺跡から800m東方の岩山西斜面に位置する。先行研究は存在せず、代表者が2004年の踏査で発見した未登録・未測量の遺跡。同岩山には他にも未調査遺跡が多数分布する。

以上のフィールドワークによる入手データを、これまでの発掘調査の成果と総合し、当該地域における神殿と居住エリア等との地理的関係を把握した。

4. 研究成果

(1) 神殿と居住エリアの関係

ネペーニャ川南岸のワカ・パルティエダ神殿遺跡に隣接するエリアの地表では、居住エリアの可能性のある遺構・遺物は観察されなかった。一方、ワカ・パルティエダから700mほど離れた耕地と河岸段丘の境界周辺は状況が異なり、形成期後期の居住施設と推測される遺跡が確認された。両者が同時期だとすると、河川に近いワカ・パルティエダ神殿と、そこから少し離れた河岸段丘上に神殿の支持者らの居住エリアがあるという位置関係になる。ネペーニャ川北岸に位置するセロ・ブランコ神殿遺跡の場合、周囲に小マウンドが散見されるが、形成期の遺構・遺物は全く観察されなかった。一方セロ・ブランコ遺跡から700m以上上流方向に離れたマウンド状遺跡において形成期後期の土器が確認された。これらワカ・パルティエダとセロ・ブランコ両遺跡周辺の踏査から導き出されるのは、恐らく形成期後期前半のネペーニャ期において、神殿と居住エリアは一体化することも隣接することもなく、一定の距離が置かれていたという仮説である。仮説の検証は今後の居住エリア発掘まで持ち越されることになる。

(2) スーテ・バホ遺跡複合の発見

ワカ・パルティータ神殿遺跡にほど近いスーテ・バホ地区に分布する複数の遺跡は、先行研究では様々な時代のものであると考えられてきた。本研究では、表採土器の時期比定とドローンによる三次元測量から、それらの遺跡の大半が形成期後期に属し、なおかつ全体としては町や村落のような集合体が砂に埋もれた状態である可能性が高いと判明した。スーテ・バホ遺跡複合と建築プラン的にも類似する大規模居住地遺跡は、より下流域でも北米の調査団によって複数確認されており、そのタイプの遺跡はワカ・パルティータ神殿を中心とする社会とは異なる政体の中心地と推定されてきた。しかし今回発見されたスーテ・バホ遺跡複合は、ワカ・パルティータ神殿と異なる政体に属すると考えるには物理的に近すぎる。スーテ・バホ的タイプの遺跡と神殿との関係については今後の調査で再検討を要する結果となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 芝田幸一郎・宮野元太郎	4. 巻 21
2. 論文標題 ペルー北部ネペーニャ市周辺の形成期遺跡踏査 時期比定と居住エリアの再検討を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古代アメリカ	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Helmer, Matthew, David Chicoine, Hugo Ikehara and Koichiro Shibata	4. 巻 1
2. 論文標題 Plaza Settings and Public Interactions during the Formative Period in Nepeña, North-Central Coast of Peru	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Americae: European Journal of Americanist Archaeology	6. 最初と最後の頁 7-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 宮野元太郎・芝田幸一郎	4. 巻 19
2. 論文標題 アンデス文明形成期の建築活動にみる水利用と災害の記憶 - ペルー北海岸ネペーニャ下流域におけるドローン三次元測量データからの検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪観光大学紀要	6. 最初と最後の頁 62-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Chicoine, David, Hugo Ikehara and Koichiro Shibata
2. 発表標題 Beyond Chavin: The First Millennium BC in Nepeña
3. 学会等名 Dumbarton Oaks Pre-Columbian Studies Symposium “Reconsidering the Chavin Phenomenon in the Twenty-First Century”（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芝田幸一郎・宮野元太郎
2. 発表標題 ペルー北部ネペーニャ市周辺地域における形成期神殿の後背地調査
3. 学会等名 古代アメリカ学会第22回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮野元太郎・芝田幸一郎
2. 発表標題 アンデス文明形成期の建築活動にみる水利用と災害の記憶
3. 学会等名 古代アメリカ学会第22回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芝田幸一郎・宮野元太郎
2. 発表標題 ペルー北部ネペーニャ市周辺地域の形成期セトルメントパターン
3. 学会等名 「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」「生物考古学資料にもとづく古代アンデス社会の複雑化過程の解明」2017年度合同研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮野元太郎
2. 発表標題 ペルー北部ネペーニャ谷形成期の建築活動と自然災害の関係
3. 学会等名 「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」「生物考古学資料にもとづく古代アンデス社会の複雑化過程の解明」2017年度合同研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芝田幸一郎・宮野元太郎
2. 発表標題 アンデス形成期の神殿後背地研究を始めるにあたって
3. 学会等名 古代アメリカ学会第21回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 芝田幸一郎・宮野元太郎
2. 発表標題 アンデス形成期の神殿後背地-ネペーニャ谷からの展望
3. 学会等名 「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」「生物考古学資料にもとづく古代アンデス社会の複雑化過程の解明」2016年度合同研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大貫良夫・鶴見英成・井口欣也・関雄二・芝田幸一郎・松本雄一・坂井正人・渡部森哉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 208
3. 書名 アンデス古代の探求	

1. 著者名 Richard L. Burger, Lucy C. Salazar, Yuji Seki, eds.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Yale University Press	5. 総ページ数 234
3. 書名 Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia BC. (担当論文: Intraregional Competition and Interregional Reciprocity: Formative Social Organization in the Lower Nepeña Valley on the North-central Coast)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	宮野 元太郎 (Miyano Gentaro) (30560586)	大阪観光大学・国際交流学部・准教授 (34434)	